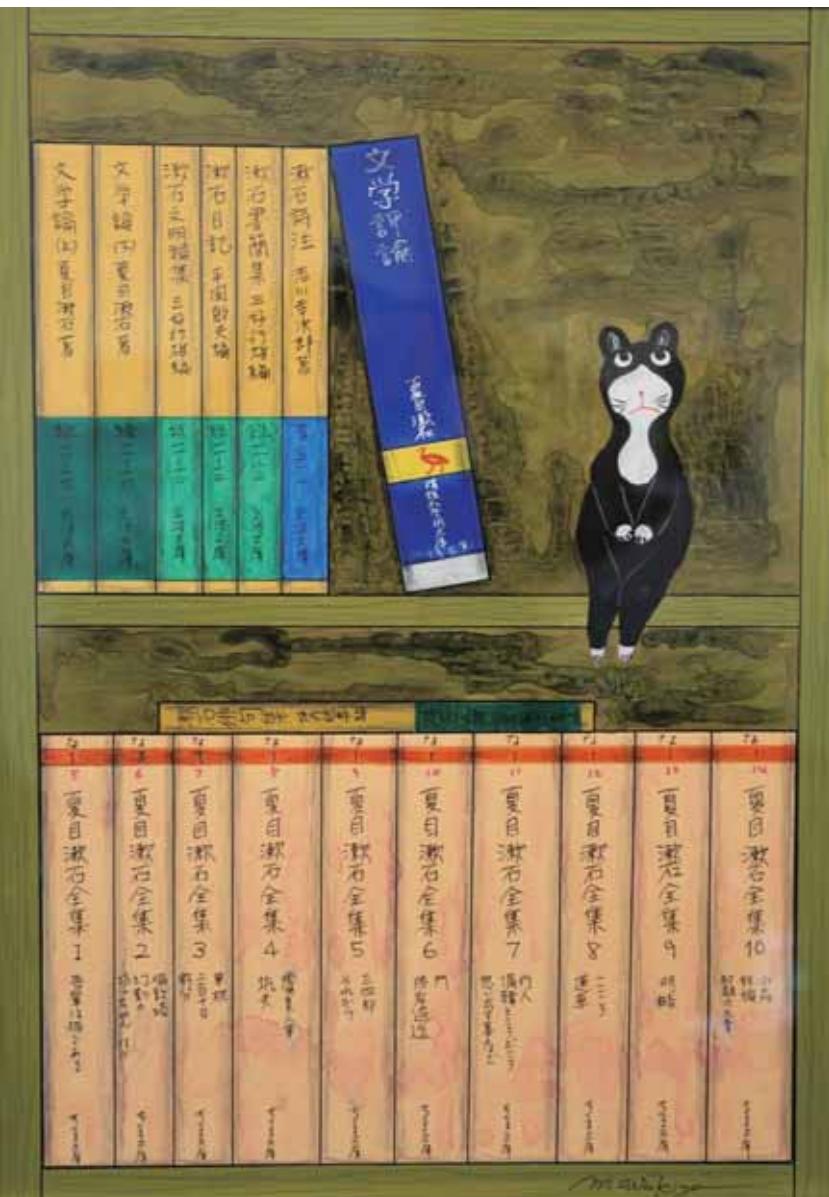


# 脇屋 幹夫 展

## 〈続〉 新世界表現 - 偏愛の本棚 -



2016.10/6-10/11



今週の展覧会は、脇屋幹夫展〈続〉新世界表現－偏愛の本棚－です。昨年の展示では、新世界表現シリーズ5年目にして最終章を発表されました。今年は新たに続編を迎え、サブタイトルには『偏愛の本棚』とるように、セレクトされた本が描かれています。脇屋先生の表現は、本棚を模し、背表紙のタイトルが我々に何か訴えるような絵画表現が特徴です。「絵の中に文字」という大変珍しいスタイルで、ここ茶屋町画廊にて毎年展示されている作品の中でも脇屋先生だけが表現する作風でもあります。販売されている本として本屋に陳列されるものとは違い、一種のインスタレーションとして表現された本棚の作品は、無限の表現の可能性を秘めている様にも思えます。今までには「第1章－本棚－もう一つの自分の世界－」・「第4章－人生の観察と思索の本棚－」・「最終章－現代を点検する本棚－」と続きました。作品の本棚を見ると、それぞれ著者が述べる現代に対するタイトルが日本に対しての社会や風刺を捉えることが出来ます。また、今回の展示では有名な著者の本が置かれているものもあり、図書館で散策するかのような発見と楽しさがあります。